

北海道松前公園の桜の縮伐等について

1 はじめに

北海道松前町（まつまえちょう）にある松前公園は、日本さくらの会の「さくらの名所 100 選の地」で、比較的温暖な気候のため、全国有数の桜の栽培品種の集植地となっています。この公園の一角に 2015 年（平成 27 年）4 月 10 日に多くの桜の栽培品種を植栽した場所（以下「平成 27 年桜集植地」といいます。）があります。



平成 27 年桜集植地

2022.05.05

平成 27 年桜集植地の桜は、公益財団法人日本花の会、公益財団法人遺伝学普及会の協力を得て入手したものや、埼玉県の木業者 1 社から購入したもので、栽培品種数が 44、総本数が 55 本となっています。その内訳は松前公園での枯死した栽培品種の復元用 9 種 9 本、新規導入用 35 種 46 本、です。

復元用は、「暁南殿」や「松前玉姫」など、新規導入用は「御帝吉野」や「小松乙女」などソメイヨシノ系のもの、「コリングウッドイングラム」や「ピンクウェーブ」など海外生まれのもの、「アーコレード」や「四季桜」などの二季咲きのもの、などです。これらは、多様な桜の栽培品種の遺伝子資源の保管庫という松前公園の特徴をよく表している集植地となっています。

2022 年（令和 4 年）7 月 13 日に、当社の CSR の一環として、平成 27 年桜集植地の縮伐（主幹の断幹及び側枝切除）、側枝切除、施肥、てんぐ巣病罹患枝切除を松前町と協働で行いました。あえて「夏季せん定」にあたる時期に行っています。

また、2022 年 10 月 6 日に、7 月実施の縮伐等の効果の確認を行いましたので、これも含めて、以下、報告します。

2 2022 年 7 月 13 日

（1）平成 27 年桜集植地の状況

桜は、植栽間隔が狭いと光を求めて高く伸びていき、下枝は光が入らなくなるため、枯れ上がりの発生のほか、側枝が隣接樹の側枝と交差し日当たりが悪くなって、枯れてしまうことなどがあります。これでは、花芽が少なくなり、観賞のために植えた目的が達成できません。

平成 27 年桜集植地は、植栽間隔が 4 m 程度に密植した場所です。当初は、すぐに移植する計画でしたが、移植地の確保などの課題から、密植栽培のまま樹高を抑え、側枝の発達も抑え、縮伐管理する道を選択しています。植栽後 7 年を経て、側枝が重なりはじめ、樹高も 4 m を超えるような桜の木も出てきたため、縮伐がまったなしの状態となり

ました。

(2) 「夏季せん定」の考え方

せん定は一般に「冬季せん定（休眠期せん定）」を指しており、これに対して「夏季せん定」は、新梢の葉がついている期間に行われるせん定です。

今回の「夏季せん定」となる縮伐は、「新版 せん定を科学する 樹形と枝づくりの原理と実際」（著者：菊地卓郎・塩崎雄之輔、発行：社団法人農山漁村文化協会 2005年）において、「6月、7月のせん定では翌年の新梢は強勢にはならなかったが、8月下旬以降のせん定は休眠期せん定と同様に翌年の新梢を強勢にした」というリンゴの二年生樹の実験結果を参考にしています。

「夏季せん定」によって、強い新梢を発生させることを少なくして、樹木の負担の軽減化、樹形整形の効率化を図ろうとするものです。

桜の密植栽培地を長年にわたって管理していくため、次のことを目標として作業を行いました。

- ①樹冠内部にまんべんなく光が入り、多数の花を全面的に咲かせること、
- ②桜を鑑賞する来園者が歩きやすく、花を観察しやすい樹形を確保すること
- ③人が脚立で管理しやすい樹高（4m程度）に抑えること

なお、当該地での高所作業車の使用は想定していません。

(3) 縮伐（主幹の断幹及び側枝切除）

縮伐等の作業は、松前町商工観光課公園係長松浦慎也氏、当社樹木医木戸口和裕の2名で行いました。

樹高4mを超えるもの、かつ、隣の木と枝が重なりつつあるものを選木し、次の栽培品種各1本の計4本の縮伐を行いました。

- ①小松乙女、②御帝吉野、③静匂、④ホワイトファスティギアータ

なお、縮伐に限らず、切除した枝や幹の径が1cmを超えるものは、殺菌剤バッチレート塗布しています。

また、この縮伐した4本のみ、フルボ酸の固形の植物活性剤フジミン Forest（ペレット状）を桜1本につき、100g程度をパラパラと散布しました。



縮伐前 小松乙女 2022.07.13



縮伐後 小松乙女 2022.07.13

(2) 側枝切除

樹高が高くなっていないもので、側枝が発達しているものを選木し、次の栽培品種各1本の計2本の側枝切除を行いました。

- ①咲耶姫、②四季桜

(3) 施肥

穴あけ器でエアレーションし、そこへ固形肥料まるやま1号を投入するとともに、砂川産堆肥とフジミン Forest を次の栽培品種、計7本に散布しました。

- ①弥生桜、②匂桜、③寒桜、④プリリフローラ、⑤露小袖1、⑥露小袖2、⑦北斗高砂

なお、上記の⑤から⑦は平成27年桜集植地内の桜ではなく、その近隣に植えられた桜で、これらも含めて行いました。

(4) てんぐ巣病罹患枝切除

サクラ類てんぐ巣病の病徴が見られた次の2本の栽培品種について、罹患枝の切除を行いました。

- ①十月桜、②舞姫



施肥状況

2022.07.13



切除されたてんぐ巣病罹患枝

2022.07.13

3 2022年10月6日

2022年7月13日に実施した「夏季せん定」による縮伐等の効果確認を、松浦慎也氏と木戸口和裕の2名で行いました。

(1) 縮伐、側枝切除、てんぐ巣病罹患枝切除

いずれも、「夏季せん定」に対する反発（著しい徒長枝の発達）はありませんでした。



縮伐から約3カ月後

2022.10.06

(2) 施肥

今回の観察では、①弥生桜、③寒桜、④プリリフローラ、⑥露小袖2は、葉色が良く、施肥効果はあったと判断しました。特に弥生桜はヒコバエも出て、葉量が劇的に増えました。

一方、②匂桜、⑤露小袖1、⑦北斗高砂は、ヒコバエの葉の大部分が落葉するくらい、樹勢が弱くなっており、施肥効果は確認できませんでした。



施肥直後 弥生桜 2022.07.13



施肥から約3カ月後 弥生桜 2022.10.06

4 おわりに

今回の「夏季せん定」による縮伐は、2023年（令和5年）の新梢の時期に強勢となっていないかを確認していくこととなります。

新梢生長は、根の基部からの距離が長くなるほど弱くなり、また、分枝を重ねるほど弱くなることが知られています。時期についての検証も必要ですが、いずれにしても縮伐は、密植栽培地において避けて通ることはできないもので、花を咲かせながら樹形をつくっていくこととなります。